恵雅堂出版　新刊　注文扱い（返品可）ご手配のお願い

パステルナーク事件と戦後日本

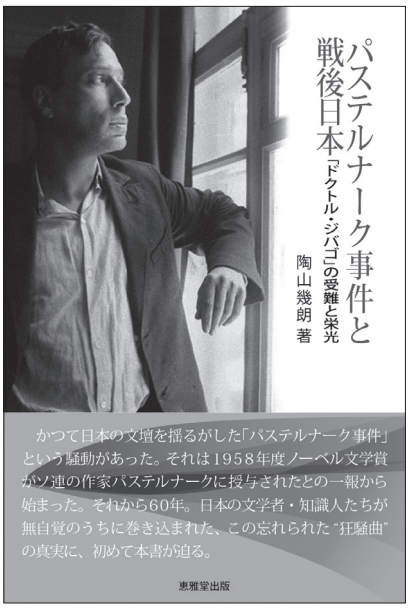
「ドクトル・ジバゴ」の受難と栄光

── パステルナーク生誕 130 年、没後 60 年 ──

陶山幾朗 著

四六判 432 頁並製本　本体 3,000 円＋税

【陶山幾朗】 1940 年生まれ。1965 年早稲田大学第一文学部卒。著書に『シベリアの思想家－内村剛介とソルジェニーツィン』（風琳堂）、『内村剛介ロングインタビュー』（恵雅堂出版）、『現代思潮社という閃光』（現代思潮社）、編集『内村剛介著作集』全７巻（恵雅堂出版）。2018 年 11 月 2 日急逝（78 歳）



かつて日本の文壇を揺るがした「パステルナーク事件」という騒動があった。それは 1958 年 10 月 23 日、スウェーデン・アカデミーがノーベル文学賞受賞者はソ連の詩人ボリス・パステルナークに決定、との一報から始まった。

『ドクトル・ジバゴ』は、スターリンの大粛清を生き残ったパステルナークが、ロシア革命期に生きた主人公、医師・ジバゴに自身を投影させて描いた長編小説で、ロシア文学の伝統を正しく継承しているが故にブルジュア的と批判され、ソ連国内で出版を許されなかった。これが秘密裏に国外に持ち出され、西側で翻訳出版されたものがセンセーショナルな成功を収め、突然のノーベル賞授与となった。受賞が発表されるや、ソ連政府は作家同盟から詩人を除名させ、そのうえで国外追放にすると恫喝して、ついに詩人を授賞辞退に追い込んだ。

西側の世論はこれに対して挙って厳しい抗議の声をあげた。その中で日本ペンクラブの極めて微温的な態度を象徴するある“事件”が起こる。これに敢然と異を唱え、ペンクラブ宛に批判声明を出したのがサイデンステッカー、アイヴァン・モリス、ヨゼフ・ロゲンドルフの３名で、平林たい子がこれに同調して騒動は始まった。（パステルナークは失意のうちに 1960 年に死去）

それから 60 年。日本の文学者・知識人たちが無自覚のうちに巻き込まれた、この誰からもすっかり忘れられた“狂騒曲”の真実に本書が初めて迫る。

目次

序　章　発端 ── 1958 年 10 月 23 日
第１章　祝福から迫害へ── 1958 年 10 月 23 日～ 11 月 6 日
「文学的原子爆弾」？　唸る迫害マシン　「敗北の中の勝利」か？
第２章　「事件」前史 ── 1956 ～ 58 年
“雪解け”という追い風　運命の日── 1957 年 5 月 原稿、国外へ
不毛なる暗闘──ソ連 vs イタリア
第３章　日本語版『ドクトル・ジバゴ』狂騒曲
翻訳まで──日本語版の不幸な出発　「2 万部」から「23 万部」へ
日本ペンクラブの奇妙な「申合せ」
第４章　糾弾者エドワード・サイデンステッカー
“米・英・独連合”の成立　「文化帝国主義者」サイデンステッカー
雨と雲と花と
第５章　「文士」と政治 ── 高見順（１）
高見順の怒り　「曖昧」の向こう側　文士、政治に近寄らず
第６章　「怖れ」と「美化」と──高見順（２）
文士もすなる政治　ソ連招待旅行──「人間に会いにゆく」
「怖れ」と「美化」と
第７章　「モスクワ芸術座」という事件
来た 観た 感動した！　浅利慶太の批判　「国禁芸術」と「国策芸術」
第８章　《害虫》のポリティクス
「おちつかない老年」再考　パステルナークという「雑草」
「屑」の英雄化における労働の役割
第９章　“ワルプルギスの夜”の闇
1948 年 8 月、ソビエト農業科学アカデミー総会
“旋風”日本に上陸す　八杉龍一 vs 木原均
第 10 章　『真昼の暗黒』の来日 ──アーサー・ケストラー（１）
「ノー・モア・ポリティクス」を宣言
“私は出席できません”──ケストラー　“最大の侮辱だ”──高見順
第 11 章　「目に見えぬ文字」への道程 ──アーサー・ケストラー（２）
岐路における言葉　永遠の「党」──『真昼の暗黒』
汝、誠実さのかけらを有するならば──『目に見えぬ文字』
第 12 章　“勝利”の儀式？──第三回ソビエト作家大会（１）
“詩人殺し”のあとで　「新しい人間」とは誰か
『ドクトル・ジバゴ』はなぜ有罪か
第 13 章　クレムリン宮殿の中野重治 ──第三回ソビエト作家大会（２）
「くつろいでいられる国」　清潔な人、清潔な国
フルシチョフに屈する中野重治
終　章　「事件」の終わり ──かくて人びとは去り……
“辞退表明”以後　ボリス・パステルナーク／ニキータ・フルシチョフ／高見順／平林たい子／ジャンジャコモ・フェルトリネッリ／アーサー・ケストラー／エドワード・G・サイデンステッカー
補　遺　わが国メディアに現われた「パステルナーク事件」関連論評（1958 ～ 1967）
「パステルナーク事件」関連年表
跋　天上のことばを、地上にあって　工藤正廣
あとがき

恵雅堂出版　FAX 03-3207-5909　〒 162-0053 新宿区原町 1-28　TEL 03-3203-4769

（書店印）	冊	陶山 幾朗 著
		パステルナーク事件と戦後日本
		四六判 432 ページ　ISBN 978-4-87430-058-9　C 0095　本体 3000 円＋税